

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	かのう ひでとし 和 秀俊		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	はらだ こうき 原田 晃樹	立教大学コミュニティ福祉学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 2	RIK f -090702-0	10	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生たちが、地域社会における生活問題の解決に向けて、自分たちの関心があるテーマについて質的調査を行い、それぞれのテーマを深く探求し、それらの問題の新たな解決方法を発見した。また、これらの作業を通して、企画力や問題解決能力、コミュニケーション能力、主体性、協調性等も身に付けることができた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：地域社会における生活問題の解決に向けて新たな視座を得るために、それぞれの問題に取り組んでいる NPO 等の団体・組織で質的調査を行った。

2. 調査の内容/概要：「不登校・引きこもりの子ども支援」と「在日外国人支援」を行っている活動団体に参与観察とインタビュー調査を行い、KJ 法を用いて分析した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：ドキュメント分析によって、「不登校・引きこもりの子ども支援」と「在日外国人支援」に取り組んでいる代表的な活動団体を抽出し、前者は、NPO 法人のフリースクール、後者は、認定 NPO を調査対象に選定した。

4. 主な調査項目：ドキュメント分析によって、各テーマの現状と課題等を整理し、それに基づいて、各団体の現状と課題、具体的な取り組み、支援サービスの利用者 (学生、子ども、その親) の考えや意見、様子について参与観察とインタビュー調査を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：各団体に、学生がボランティアとして関わる中で参与観察を行い、フィールドノーツを書き、さらには、サービス提供者 (団体責任者、スタッフ) や学生、子どもの親にインタビュー調査を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：夏休みを利用して 8~9 月の間に、「フリースクール M 学園」と「F 国際交流センター」において、4~6 名の学生が参与観察とインタビュー調査を行った。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：それぞれの団体において参与観察とインタビュー調査で得られた質的データは、「分厚い記述」とまではいかないまでも、質の高いデータとなった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：それぞれの団体において参与観察とインタビュー調査で得られた質的データを各グループで KJ 法で分析し、「不登校の子どもの支援」と「在日外国人の支援」の方法を抽出した。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：分析した結果、「不登校の子どもの支援」は、「学校・家庭・フリースクールが連携して、子どもの個性に合わせたサポートをすることが大切である」ことがわかった。「在日外国人の支援」は、「行政と NPO の連携した受け入れ体制の充実と外国人自身の努力」が必要であることが新たな視点として導き出された。

10. 報告書刊行の予定と概要：はじめに、編集後記は、指導教員が担当し、第 1 部「不登校・引きこもりの子どもへの個性に合わせた自立支援～学校・家庭・フリースクールの連携の必要性」、第 2 部「在日外国人が抱える問題と当事者自身ができること～支援制度の隙間における NPO の役割」は学生が分担執筆し、2010 年 3 月に報告書を発行した。